

◆病院図書室ネットワーク紹介◆

## 長野県医学図書ネットワークについて

中嶋 吏 栄

### I. はじめに

長野県は全国で四番目に面積の広い県で、海に面していないいわゆる内陸県であり、周囲を山々に囲まれています。また、峠の数は日本一であり、県歌である「信濃の国」で歌われている通り、4つの平(=盆地)である中信(松本)、南信(伊那)、東信(佐久)、北信(善光寺)を中心に人が集中しそれぞれ異なった文化を形成してきました。そのため、幹線道路、鉄道などの交通網は山間を縫うように走っており、それぞれの地域の交流の妨げになっています。そういった地理的事情もありなかなか交流を深めることができなかつた当県ですが、病院機能評価受審にあたり図書室の整備が求められ、文献入手を含めたネットワークの必要性が高まりを見せる中で、近畿病院図書室協議会の中村さん、山室さんらの協力を得て県内病院図書室67施設へのアンケート等の準備を行い、実施しました。その上で2005年12月に佐久総合病院の佐々木さん、飯田市立病院の渡辺さん、長野赤十字病院の前澤さんを中心に松本勤労者福祉センターにて当会を発足しました<sup>1)</sup>。地域中核病院を中心に2つの大学を含む15施設の図書館(室)

の担当者16名でスタートし、その後看護専門学校、公共図書館の仲間も加わり、現在は地域ならではの“顔の見えるネットワーク”として、会員同士のスキルアップの場となっており、相互の資質向上をめざしています。

### II. 活動内容など

長野県医学図書ネットワーク(以下、当会)では、年1回の定例研修会の開催、目録交換等を通じた文献の相互貸借の他、困った時に相談しあえる仲間として交流を行っています。会員数は17名(2019年8月現在)と、小規模な会ではありますが、地域ならではの情報交換や、顔を見ながらだからこそ話せる(ぶっちゃけた)内容など「こんな細かいこと聞いてもいいかしら・・・?」というような事柄まで気軽に話せる間柄が強みになっています。

#### 1. 定例研修会

定例研修会は会員の所属施設で行い、1年おきに外部講師を呼び、それ以外の回では会員が講師となったり、全員発表を行うなどして開催しています(表1)。2018年はインディペンデント・ライブラリアンの小嶋智美氏を講師に迎え、県立長野図書館(平成30年度長野県医療・健康情報サービス研修会)との共催で開催しました。当会以外からの参加者も多く、県内の公共図書館員、都内の大学の

NAKAJIMA Rie

地方独立行政法人長野市民病院 図書室

library@hospital.nagano.nagano.jp

講師の方など館種を越え地域の中での「図書館員（医療図書情報提供に関わる者）」として、お互いの存在や活動を知り、交流する場となりました。

2016年には、信州大学附属図書館中央図書館を会場に、一人一台端末を使える環境での文献検索演習を行いました。病院ではなかなか難しい複数の端末での演習が実現したことなどは、大学をはじめとする様々な所属のメンバーがいる強みといえます。

研修会自体はもちろんですが、お昼休憩時の「情報交換」が特に重要なポイントです。研修会の開始時間は土曜日の13：30を基本としていますが、準備も兼ねて有志が午前から集まってきます。その施設内のレストランや出入りの業者に弁当を注文し、同じ食事を取りながら歓談します。この時間に聞きたいことをメモして参加し、「早速ですが・・・」と始めるメンバーも風物詩になっています。

表1 過去の研修会と会場とテーマ

第15回 2018年	会場：県立長野図書館 ※共催 地域における医療情報提供を考える ～病院・大学・公共、それぞれの図書館ができること
第14回 2017年	会場：諏訪中央病院 他所（よそ）のLibraryみて我がLibrary直せ！～現況調査を踏まえて
第13回 2016年	会場：信州大学附属図書館中央図書館 EBMを意識した文献検索（演習） ～医中誌・JDreamIII・Pubmed
第12回 2015年	会場：佐久総合病院佐久医療センター 利用者への情報の差し出し方～私の経験 長野県医学図書館ネットワークについて
第11回 2014年	会場：長野赤十字病院 地域連携とライブラリアン

第10回 2013年	会場：篠ノ井総合病院 第三者評価と病院図書館 図書館と広報～広報お悩み相談室 論文の影響力を調べる新しい指標：Altmetric
第9回 2012年	会場：信州上田医療センター 図書館と医学系図書館～専門性について考える 図書館員に必要な情報検索スキル
第8回 2011年	会場：諏訪赤十字病院 図書室（館）運営のヒント～顔の見えるネットワークへ 紹介します My Library 看護研究における文献検索
第7回 2010年	会場：長野県看護協会 看護職への支援を考える 信州大学コンソーシアムの現状と今後について
第6回 2009年	会場：長野市民病院 病院機能評価～Ver.5.0から6.0へ 一般市民への医療情報を考える
第5回 2008年	会場：安曇野赤十字病院 無料の電子ジャーナルを使おう
第4回 2007年	会場：長野赤十字病院 洋雑誌の構成とPubMedの見方 JDreamIIの使い方
第3回 2006年	会場：信州大学附属図書館医学部図書館 JDreamII
第2回 2005年	会場：信州大学附属図書館医学部図書館 信州大学への文献複写依頼について 「相互貸借」の基礎について
第1回 2004年	長野県松本勤労者福祉センター 医中誌 Ver.4

## 2. 当会の特徴

当会の特徴として、第一に「熱心である」ことが上げられます。外部講師の方をお招きした際に「一人として退屈そうな顔をしている人がいない」「皆、主体的に参加している」という言葉をいただくことが度々ありました。非正規雇用の会員が多く、兼務等で図書業務以外の仕事を持っている場合も多いため、全

国規模の研修会への参加が難しいという現実があります。また、部署異動や退職により現場を離れ、以前より図書館（室）との関わりが薄い者もいます。そういった状況であっても、個人会員制のみで会費を安価に設定しており、比較的交通費も抑えられるため、熱意さえあれば参加できる環境が整っています。

会を続けていくということはエネルギーが必要です。地域ネットワークでは会長や事務局といった役員の負担が大きいと引き受け手がいなくなることもあります。そのため、設立当初の事務局担当者が異動で図書室を離れたことを機に、事務局業務を「総務、教育研修、広報」に分け、特定の者に過度の負担がいかないように業務を分散しました。会長や会計監査、相談役等も含め、会の半数近くがなんらかの役を持っていることとなりますが、ただ「参加」するのではなく「参画」という意識づけにもなり、これも「熱心さ」に繋がっているのかもしれませんが。

### 3. 信州大学との連携

当会の要望等もあり、信州大学では2007年度から文献複写の後納制度を取り入れました。これにより、文献入手に要する時間が従前の約2週間から2日程度に短縮され、契約している多くの電子ジャーナルも利用でき、文献収集の利便性が格段に向上しました。

2008年6月からは長野県内の信州大学研修医・研修生派遣病院（以下、関連病院）に対し、①JDreamII（現在はIII）のコンソーシアム契約による特別価格での提供、②Web申込方式による文献複写物の提供（新文献複写サービス）、の2つの新サービスが開始されました。①については、通常病院がJDreamIIを導入する際の最低料金は年間30万円（同時

アクセス3）のところ、年間10万円（同時アクセス1）からでも契約できるプラン（追加は1アクセス単位で可能）が提供されたため、低価格で導入がしやすくなっています。②については、①に参加する関連病院を対象とし、信州大学附属図書館のIDが大学関係者と同じように与えられ、四半期ごとの料金後払い方式で利用ができるようになりました。信州大学所蔵の資料だけでなく、所蔵のない資料も他館（所蔵館）より入手するため依頼が可能になっています<sup>2)</sup>。関連病院には必ずしも司書を配置した図書室があるわけではなく、業者を通じた文献購入を行っていた施設にとってはコスト面のメリットがあります。当院では、時間や費用が追加でかかるため信州大学所蔵の文献を中心に利用していますが、NACSIS 非相殺館にとって申し込み手続きや料金支払いの点で敷居の高い機関（前納、為替、現金書留等）しか所蔵が確認できない場合などには他館依頼を利用しており、利便性が向上しています。

県内機関からの信州大学医学部図書館への文献複写数については、2005年度には31件、当会発足後の2006年度には140件に増加しました。さらに、当会の活動が浸透し、料金後納制度を開始した2007年には450件（約3.2倍）となりました。また、新文献複写サービスを開始した2008年には1,225件（約2.7倍）と増加しています<sup>3)</sup>。

当会に所属する病院も含め、県内の中核病院のほとんどは信州大学の関連病院であり、多くの研修医、研修生を受け入れています。大学図書館と病院図書室とが情報を交換し、新しいサービス等の取り組みに繋げていくことで、地域医療の質的向上の貢献になると考えています。

### Ⅲ. おわりに

学術情報提供に関して、環境（インフラ）の整備はもちろんですが、担当者の資質を高めることも利用者サービスに繋がる重要な要素です。メンバーの持っている背景は様々ですが、皆迷いながら悩みながら業務にあたっています。足りない部分を補い合い育てていくために、まだまだ草の根ではありますが活動を続けていきたいと思っています。



第15回長野県医学図書ネットワーク定例研修会  
平成30年度長野県医療・健康情報サービス研修会

### 参考文献

- 1) 前澤好広, 長野県でのネットワーク活動について, 病院図書館, 2006；26(2)：54-55.
- 2) 石坂憲司, 折井匡, 信州大学附属図書館医学部図書館の地域関連病院への新サービスの取り組み, 医学図書館, 2009；56(2)：151-155.
- 3) 石坂憲司, 信州大学附属図書館医学部図書館の地域医療支援活動について, 情報管理, 2009；52(4)：207-215.